

平成30年9月の台風21号来襲時、走錨した貨物船が関西国際空港連絡橋へ衝突する事故が発生しました。それ以降も、台風来襲時には、同種の事故や船舶同士の衝突事故が発生しています。

このように、例年9月から10月にかけては大型台風の影響による事故が発生していることから改めて台風等の荒天時における安全対策を徹底していただきますようお願いします。

走錨事故防止ポータルサイト

走錨事故防止に役立つ以下のような情報を掲載しています。

- ・台風進路図、外洋波浪予想図
- ・灯台等で観測した風向・風速等に関する情報
- ・投揚錨作業と事故防止、台風を錨泊避航した状況等



錨泊方法毎のメリット・デメリット

錨泊方法	メリット	デメリット
単錨泊 ・最も頻度が高い 	<ul style="list-style-type: none"> ・強風時でも、錨を揚げる事ができるため転錨が可能 ・風向の変化に合わせて、振れ止め錨や双錨泊等の他の錨泊方法への移行が可能 	<ul style="list-style-type: none"> ・他の錨泊法と比べて把駐力が弱い
単錨泊 (振れ止め) 	<ul style="list-style-type: none"> ・船首の振れ回り抑制に効果あり ・振れ止め錨の投下は振れ回り運動を半減させ、錨への作用力も30~40%減少させる効果 ・風があまり強くない範囲で有効 	<ul style="list-style-type: none"> ・風向の変化により錨鎖が絡む ・からんだ場合、自船で直すことは困難 ・強風時に、錨を揚げるのが困難
二錨泊 	<ul style="list-style-type: none"> ・把駐力の向上 ・一方向からの強烈な風浪や流れに有効 	<ul style="list-style-type: none"> ・風向の変化により錨鎖が絡む ・からんだ場合、自船で直すことは困難 ・強風時に、錨を揚げるのが困難
双錨泊 風向きが変わった場合は、単錨泊の状況と同じ 	<ul style="list-style-type: none"> ・両舷錨鎖の開き角を45~60°とすれば、振れ回り抑制に、大きな効果があり、錨への作用力も約40%近く減少 	<ul style="list-style-type: none"> ・風向の変化により錨鎖が絡む ・からんだ場合、自船で直すことは困難 ・強風時に、錨を揚げるのが困難

荷主企業等の方へのお願い

重要

台風接近時、堪航性が高く外洋避泊可能な大型船や風の影響を受けやすい高乾舷船等、錨泊船により混雑する海域での錨泊を避けようとする船舶が**時間的余裕を持って他の海域に避難**できるよう、荷主企業等においても、荷役計画の変更等柔軟な対応をお願いします。

重要

GPS・AIS・レーダー等の活用による**自船及び周囲の船舶の錨泊状況(振れ回り運動、船位)の監視**、気象・海象の把握、国際VHFの常時聴取等、**適切な荒天当直**を実施して下さい。

走錨事故防止ガイドライン



海の安全情報



走錨リスク判定システム

